

中学3年生

期末テストに向けて

- 一・中学最後のテスト、悔いを残さぬよう全力でぶち当たれ
- 一・自分の将来の扉を 自分の力でこじ開けよ。
- 一・これからの日々の経験は、高校受験だけでなく、高校に入っても君たちの財産になる
- 一・塾に勉強しにくること
質問があればその日のうちに解決する
- 一・「平均点くらいでいいや」はダメ
余裕で平均を超える勉強をせよ
- 一・スマホは親に預けるべし
- 一・今すぐ始めよう。

【数学】

◆期末テストに向けて

ワークは試験 **1週間前**には一通り終わらせ、テスト日までの1週間の間で、**最低2回**やる（2回目は間違えた問題のみ）

→必ず、わからなかった問題やもう一度やった方がいい問題には、問題番号のところに**チェック印**を書いておくこと

→1回だけではほとんどやった意味と効果はない

→早く終わったことで安心して、時間が空いてしまい、得点力が萎えてしまう。

テスト前日（当日朝）**3回目の見直し**

ワークの進め方のアドバイス

「平均点以上は余裕で取れる」→①

「平均くらいの点数か平均以下の点数」→②

①項目毎に、A問題→B問題と初めからページ順に終わらせる。

②項目毎に まずA問題のみを通して→次に初めに戻ってB問題を通して

どちらにせよ **わからなかった問題や間違えた問題は必ず印をつけて、2回目に備えること**

その後は、塾で配布するプリントをやってテストに臨みましょう。（最低2回）

◆Vもぎの点数UPに向けて

模擬テストの復習 **正答率40パーセント以上の問題は、必ず復習**をする。

→受験まで続ける（過去問や塾で行うテスト演習など）

《間違い直しノート》作成のすすめ

Change !

今までと明らかに『変わったぞ』といえる学習の質・量を追及しよう

【英語】

◆期末テストに向けて

まずは教科書の内容をしっかりと覚えることからです。

ノートの片側に英文を、もう一方の側に日本文を書いて、**重要な所には線を引**きながら覚えましょう。

単語・文を覚えるには**音読しながら書く**ことが効果的です。

表現に関する問題は、本文以外の欄外に書かれてあるものからも出題されます。教科書の**細かい所までチェック**しましょう。



次は教科書の内容が分かっているか確認のために**学校のワーク**(教科書用問題集)を解いてみる。**試験1週間前には範囲が終わる**くらいのペースで進めましょう。

直前にもう一度間違った問題の見直しができるようにしておきます。

○つけは丁寧に。

(見せてもらおうと結構間違っているのに○をつけている場合が多いです。)



学校のワークが終わったら、**塾の新ワーク**(教科書用問題集)でさらに確認をしましょう。これで単語、重要表現の最終チェックを行います。

ここまで出来ていれば教科書に関する問題では**8割以上**取れるでしょう。

あとは教科書以外の長文ということになります。これは「Vもぎ」などの模擬試験にも関連する内容です。塾で授業中に解いている長文読解問題やこれまで受けた模擬試験の問題をもう一度解き直すことが大切です。初めて解いた時に分からなかった単語は、辞書で意味を調べ、**単語ノート**などを作り、覚えるようにしましょう。

自宅で長文問題を解く時には、**時間を計りながら**解いてみることもいいでしょう。

Change !

今までと明らかに『変わったぞ』といえる学習の質・量を追及しよう

【国語】

◆期末テストに向けて

すでに各中学校の教材と進度に合わせてプリントを配布し、授業内や宿題として取り組んでいます。(漢字、文法、語句の知識、文章読解など) それらを確実に仕上げてください。

特に**漢字**は、いつも塾でやっているように間違えたところは必ず**3回**練習しておくこと。

学校のワーク(『国語の学習』など)、漢字ノートなどは、**1週間前までには終わらせる**のが目標です。それが終わったら塾の『iワーク』→プリント→レベルアッププリントと、より難度の高い問題で応用力をつけていきましょう。

古文(和歌を含む)や漢文が入る人は、塾のプリント(折り返して書き込む式の)を活用して、「現代仮名遣い」「口語訳」「書き下し文」「返り点」が**完璧に書ける**よう練習しましょう。

課題図書のある学校は、必ず書籍を購入し、遅くとも**3週間前には読み始めましょう**。塾では直前に内容の確認(あらすじ・ポイントのチェック)を行います。それまでに各自読んで、登場人物や人間関係、主な出来事を**メモ**しておきましょう。

【理科】

◆期末テストに向けて

ワークは試験 **1週間前**には一通り終わらせ、テスト日までの1週間の間で、**最低2回**やる（2回目は間違えた問題のみ）

→必ず、わからなかった問題やもう一度やった方がいい問題には、問題番号のところに**チェック印**を書いておくこと

→1回だけではほとんどやった意味と効果はない

→早く終わったことで安心して、時間が空いてしまい、得点力が萎えてしまう。

テスト前日（当日朝）**3回目の見直し**

ワークの進め方のアドバイス

「平均点以上は余裕で取れる」→①

「平均くらいの点数か平均以下の点数」→②

①項目毎に、A問題→B問題と初めからページ順に終わらせる。

②項目毎に まずA問題のみを通して→次に初めに戻ってB問題を通して

どちらにせよ **わからなかった問題や間違えた問題は必ず印をつけて、2回目に備えること**
まず第一分野の範囲の理屈を理解

それが問題の中でうまく適用できるように、繰り返し練習

次に単純暗記(主に第二分野)

その後は、塾で配布するプリントをやってテストに臨みましょう。(最低2回)

◆Vもぎの点数UPに向けて

模擬テストの復習 **正答率 40 パーセント以上の問題は、必ず復習**をする。

→受験まで続ける（過去問や塾で行うテスト演習など）

〈間違い直しノート〉作成のすすめ

特に知識は、シリウスで再度確認→間違いノートに転記する

Change !

今までと明らかに『変わったぞ』といえる学習の質・量を追及しよう

【社会】

◆期末テストに向けて

教科書、ノート、プリント、資料集などを何度も熟読し、大切な年号をしっかりと覚える。復習の際は声に出すと覚えやすい。

◆Vもぎの点数UP(実力UP)に向けて

(地理分野)

都道府県の特徴（産業、農産物、伝統工芸品、祭りなど）を確実に覚えること。
世界地理では経度、緯度などから国名や時差を確定できるようにする。また、輸出入相手国の取引品目などを、マイクリアで確認すること。

(歴史分野)

夏期講習で学習した年表をひたすら覚える。これに尽きます。

(公民分野)

基本的な用語（三権分立、基本的人権など）をしっかりと理解する。

都立高校の入試では、総合的な力があるかどうかを判定する問題が出題されます。とくに統計資料の読解を意識した学習が必要です。普段から統計資料（マイクリアなど）に目を通す習慣をつけましょう。

Change !

今までと明らかに『変わったぞ』といえる学習の質・量を追及しよう